

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)
乗換案内事業	703,060
マルチメディア事業	46,663
その他	23,687
合計	773,411

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 金額には、消費税等は含まれておりません。
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

(2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
乗換案内事業	41,912	96,184
マルチメディア事業	—	—
その他	42,749	116,195
合計	84,661	212,379

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。
3 受託開発以外の製品については見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)
乗換案内事業	945,464
マルチメディア事業	38,645
その他	32,066
合計	1,016,176

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間（平成21年4月1日～平成21年6月30日）におけるわが国経済は、世界的な金融危機等の影響が実体経済に波及し、輸出や生産に持ち直しの動きが見られるものの、企業収益や設備投資は大幅に減少するなど、景気は厳しい状況が続いております。

情報通信業界におきましても、企業のソフトウェア投資は弱含んできており、情報サービス業の売上高は前年同期（平成20年4月1日～平成20年6月30日）と比べ減少傾向にあるなど、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きの不透明感が強まる状況となっております。このような中、ブロードバンド化を含め、社会のインターネット環境が普及、成熟してまいりました。携帯電話につきましても、当第3四半期連結会計期間末（平成21年6月末）にはインターネット接続の契約数が9,100万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。携帯電話向けに提供いたしております「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の検索回数は平成21年4月には月間1億2,000万回を超えており、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第3四半期連結会計期間における当社グループの売上高は1,016,176千円（前年同期比25.5%増）、営業利益は149,212千円（前年同期比2.2%減）、経常利益は149,482千円（前年同期比2.7%減）、四半期純利益は72,738千円（前年同期比18.4%減）という経営成績となりました。

売上高につきましては、主として、乗換案内事業セグメントにおける売上高が945,602千円（前年同期比25.5%増）と順調に推移したことにより、前年同期と比べ大きく増加いたしました。また、営業利益につきましては、乗換案内事業セグメントにおいては前年同期と比べ増加しておりますが、それ以外のセグメントにおいては営業損失の計上・拡大となったため、営業利益全体としては前年同期と比べやや減少いたしました。これにより経常利益につきましても、前年同期と比べやや減少しております。四半期純利益につきましては、少数株主利益の増加や連結子会社にかかるのれんの償却による税負担率の上昇等の影響によって、前年同期と比べ減少しております。

なお、第2四半期連結会計期間末より、株式会社エクスプレス・コンテンツバンクを連結の範囲に含めており、当第3四半期連結会計期間より損益を連結しております。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

乗換案内事業は全体として、売上高・営業利益ともに順調な推移となりました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」は順調に会員数が増加しており、前年同期末（平成20年6月末）には約55.6万人でありましたが、当第3四半期連結会計期間末には59万人を超えております。また、株式会社エクスプレス・コンテンツバンクを第2四半期連結会計期間末より連結の範囲に含め、当第3四半期連結会計期間から損益を連結しております。それらの結果、売上高は前年同期と比べ大きく増加しております。

広告につきましては、携帯電話向け無料版「乗換案内」へのアクセスが増加し、新たに地域検索連動型広告を積極的に展開しておりますが、クライアントの獲得は伸び悩んでおります。しかしながら、新たに子会社を連結の範囲に含めた影響により、売上高は前年同期と比べ増加しております。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同期と比べ売上高が減少いたしております。これは主に、顧客との直接契約によるバージョンアップの販売及び店頭販売パッケージの売上が減少しているためであります。

「乗換案内イントラネット3PLUS」等の法人向け製品の売上高につきましては、前年同期と比べ大きく増加しております。これは主に、従来の製品の売上が順調に推移したことや、新たに子会社を連結の範囲に含めたことに加え、近年開始したASPサービスの「乗換案内.NET XML Edition」の売上増加によるものであります。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」、並びに携帯電話向け「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しております。また、従来の携帯電話向けサービスを統合する形で総合旅行サービス「乗換案内トラベル」として展開しており、携帯電話の画面を見せるだけで利用できる「ジョルダンクーポン（乗換案内クーポン）」の提供もいたしております。全体として売上高は前年同期と比べ増加しております。

以上の結果、乗換案内事業全体としては売上高945,602千円（前年同期比25.5%増）、営業利益302,515千円（前年同期比24.9%増）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、従来から携帯電話向けゲーム「hamster倶楽部」等の提供を行っております。前連結会計年度からは、ニンテンドーDS向けに家庭用ゲームソフトの発売を行っております。また、総合オピニオン誌『表現者』の発行元となり、出版事業も展開しております。新たに、第1四半期連結会計期間より書籍の発売を開始し、当第3四半期連結会計期間においては『名作にひそむ 涙が流れる一行』の1タイトルを刊行しております。

加えて、株式会社エクスプレス・コンテンツバンクを第2四半期連結会計期間末より連結の範囲に含め、当第3四半期連結会計期間から損益を連結しております。

それらの結果、全体として売上高は増加しておりますが、当第3四半期連結会計期間においては新たな事業展開を含め、利益の獲得には至っておらず、前年同期と比べ営業損失が拡大しております。

以上の結果、売上高38,645千円（前年同期比224.2%増）、営業損失67,019千円（前年同期は34,254千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発及び情報関連機器リース等につきましては、当第3四半期連結会計期間においてはソフトウェア開発の売上が伸び悩んだ影響で、前年同期と比べた売上高は減少し、営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高38,530千円（前年同期比29.9%減）、営業損失6,369千円（前年同期は7,821千円の利益）となりました。

なお、上記の事業の種類別セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及び内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

（注） 上記における前年同期比増減率（前年同期の金額）は、業績説明上の参考情報として記載しており、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

（2）財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成20年9月末）と比較しますと、資産は310,191千円増の3,310,933千円、負債は93,914千円増の699,749千円、純資産は216,277千円増の2,611,184千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、69,856千円減の2,405,268千円となりました。これは、現金及び預金が205,383千円減の1,488,030千円となったこと等の影響が、受取手形及び売掛金が123,224千円増の776,616千円、仕掛品が21,440千円増の25,669千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。受取手形及び売掛金が増加しているのは、主に第2四半期連結会計期間末より株式会社エクスプレス・コンテンツバンクを連結の範囲に含めていることによるものであります。仕掛品が増加しているのは、主にソフトウェア開発の受注増加に伴う開発中案件の増加によるものであります。

固定資産につきましては、380,048千円増の905,665千円となりました。これは、有形固定資産が17,939千円減の189,222千円、無形固定資産が315,983千円増の401,389千円、及び投資その他の資産が82,004千円増の315,054千円となったことによるものであります。有形固定資産、中でも特に工具、器具及び備品が減少しているのは、主に償却が進んでいることによるものであります。無形固定資産が増加しているのは主に、前連結会計年度末にはなかったのれんが274,758千円、ソフトウェアが34,963千円増の113,594千円となったことによるものであります。のれんが増加しているのは、主に連結子会社の増加に伴うものであります。ソフトウェアが増加しているのは、主に自社開発の市場販売目的のソフトウェアの取得によるものであります。投資その他の資産が増加しているのは主に、投資有価証券が41,363千円増の76,440千円、敷金及び保証金が39,586千円増の203,174千円となったことによるものであります。投資有価証券が増加しているのは主に、新規に連結した子会社の保有する非連結子会社株式の増加によるものであります。敷金及び保証金が増加しているのは主に、連結子会社の増加や業容拡大によるオフィス増床に伴う敷金の増加、旅行関連事業の拡大に伴う保証金の増加によるものであります。

負債は、流動負債につきましては、53,911千円増の633,903千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が26,840千円増の209,293千円、未払費用が81,835千円増の128,989千円となったこと等の影響が、未払法人税等が45,060千円減の87,971千円、賞与引当金が16,306千円減の43,358千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。支払手形及び買掛金が増加しているのは、連結子会社の増加等によるものであります。未払費用が増加しているのは、連結子会社の増加及び賞与支給額の確定によるものであります。未払法人税等が減少しているのは、法人税等の支払いによるものであります。賞与引当金が減少しているのは、賞与支給額の確定によるものであります。

固定負債につきましては、40,003千円増の65,846千円となりました。これは主に、連結子会社の増加に伴い、長期借入金が増加した40,003千円増の65,846千円となったことによるものであります。

純資産は、株主資本につきましては、197,326千円増の2,555,938千円となりました。これは、四半期純利益249,549千円が、剰余金の配当41,829千円を上回り、利益剰余金が207,719千円増の2,018,071千円となった影響が、自己株式を市場買付により取得したことにより、自己株式が10,393千円増の23,883千円となった影響を上回ったことによるものであります。

少数株主持分につきましては、18,950千円増の55,246千円となりました。これは主に、連結子会社の増加及び少数株主利益の発生に伴うものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、当第2四半期連結会計期間末と比べ37,893千円減の1,159,571千円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは53,872千円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が147,464千円、減価償却費が30,902千円、売上債権の減少額が24,052千円となったこと等の合計が、仕入債務の減少額が40,716千円、法人税等の支払額が135,061千円となったこと等の合計を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは66,613千円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が14,762千円、無形固定資産の取得による支出が29,853千円、敷金及び保証金の差入による支出が11,359千円となったことによるものであります。有形固定資産の取得による支出は、主にサーバーの購入やオフィス増床に伴う工具、器具及び備品の取得によるものであります。無形固定資産の取得による支出は、主に自社開発の市場販売目的のソフトウェアの取得によるものであります。敷金及び保証金の差入による支出は、主に旅行関連事業の拡大に伴う保証金の差入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは24,796千円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が22,503千円となったことによるものであります。長期借入金の返済の発生原因は主に、繰上返済等を行ったことであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は18,728千円であります。

事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと、マルチメディア事業においては、第1四半期連結会計期間より継続して、ニンテンドーDSやWii向けの家庭用ゲームソフトについて開発を行っております。乗換案内事業においても、第1四半期連結会計期間より継続して、iPhone・iPod touch向けのアプリケーションについて研究開発を行っております。